

究極のエコ!

“非電化工房”研修見学会報告

2009年8月21日(金)第16回研修見学会が行われ、バスは33名の参加者を乗せて那須の非電化工房へ向かいました。

到着すると、案内板は譜面台で、ムーミンハウスというフィンランド製ガーデンハウスのスナフキンがお出迎えです。



最初の母屋では、普通のお宅にお邪魔するようにフェルトの室内履に履き替えて進むと、大きなストーブや壁にかかった箒たちが目に飛び込んできました。2台のグランドピアノが片隅に有ると言う感じさえする広いリビングで家族の紹介と見学コース説明がありました。

まず、ムーミンハウスへ。樹のぬくもり・・・隠れ屋のようです。屋根に設置された太陽電池による直流照明は、太陽光発電の電磁波障害について希望が持てるものでした。一般に使用するには直流を交流にインバーターで変換していて、波ができることにより電磁波が遠くまで飛んで、電磁波障害が起きるのです。

直流のまま使用すれば電磁波が遠くに飛ばず障害が少ないという説明は目からウロコの思いでしたが、一般の電気製品は交流式なのでその変換を考えて愕然としてしまいました。

次に設置されているモンゴル遊牧民のゲルは、一般的家族用の大きさで、33人全員が入るほどの広さです。

移動が基本のゲルに電線で電気を引くことはできないのですが、太陽光発電で少しの電化製品が使えるそうです。「なんでゲルを展示し



ているのですか?」「究極のエコハウスだから?」の問いに、「何回も行っているうちに欲しくなったんです。あと、2つ分あります。」とのこと。楽しんでゆるゆるやっていることが伝わってくるお話しでした。





工房アトリエでは試作中の朶摺り器（てこずり器と呼びたくなるほど苦戦中とか）・非電化冷蔵庫（本当に冷えている！）・ソーラークーラー・ナイジェリアの子供のために、現地にある材料で作れる飲料水殺菌装置などなど・・・また、展示されていた前電化製品は、昔懐かしい氷を入れる冷蔵庫や足踏みミシン、コーヒーミル、タイプライターなどの数々で、ちょっと前までは手動が当り前のものたちが今は電動になっているということに気づかされました。

母屋に戻り、地元の有機栽培食材の美味しく体の中がきれいなるようなランチをいただいた後、藤村靖之氏のお話をたくさんの資料をもとに聞きました。1年前の資料で、今や新築の一戸建ての8割はオール電化住宅という話に驚きました。CO₂を出さずクリーンだから住宅も自動車も電気だと、今のオール電化の動きは、原子力発電所を更に作らなければならなくなるという



お話しにもショックを受けました。

自然エネルギーとして脚光を浴びている太陽光発電も、作るときに自分が発電する5年分のエネルギーを消費して作られること。急激な切り替えは、一時的には莫大なエネルギー消費を生んでしまうのです。まず、今のままの電力消費という考えを棄てなければならぬと強く感じるお話しでした。

参加者の多くは性能日本一でリーズナブルな中身が見える浄水器や、非電化珈琲焙煎器を抱えて、この見学会を終えました。非電化工房のモットー「愉しければ続かない」ということを心に留め、改めて自分の生活ぶりを振り返る見学会となりました。
報告 轟 涼

